編 集 後 記

記念出版の企画が下りてきたときは，果たして我々の時代の昔話を若い諸君が聞いてくれるだろうかと危惧し企画母体の理事，会務委員の現役の若手諸氏に確かめたところ案に相違して「是非とも先輩の経験談を遺してもらいたい」とのこと．造船復興期で汗したことは自ら誇りには思っているけれど，最盛期を過ぎたような現在では何も後輩に遺すことが出来ていないとの自戒の念であった自分を再び奮い起こす言葉に感激して出版委員長としての仕事を引き受けた．協会の各機関（大学，造船所など）からの選りすぐりの委員に協会の編集委員会の委員も加わり協議の結果，以前協会誌 186 号から連載した田中正一氏の「船台虫夜話」に範をとり造船現場技術者に重心を置き大学の学術的な話はむしろ後方におく，80 周年記念の「らん」特集の造船技術史的な話は避ける，所属や専門に拘らずまた海事海運も関連業界も含め全国から原稿を集めたいので話題の重複は避けて各機関の得意部門に分散する，各委員が所属機関に帰りその内部での相談により適任の方に執筆を依頼する，と言うことで執筆者の選定を始めた．大体の執筆者が定まった 2000 年春の講演会の時期に神戸の会場に集合してもらい委員会の編集意図を報告しお互いに意見を出し合い協議した．執筆者の年齢も考え若手現役の助力も約束しながら，出きるだけ早くと初稿の締め切りを同年（2000 年）末としたところ，続々と出稿があり委員長として先ずは全体を通し見てくれとのことで正月休みは通読に明け暮れたが，色々な危惧にも拘らず熱意溢れる素晴らしい原稿が並び早速感激してしまった．各委員分担して詳細に推敲し委員会よりのお願いとして筆者に返送したり話し合ったりして最終稿に達した．この段になってはたと当協会最大の出版「造船設計便覧」のことが抜けているのに気づいた．早速元会長の田中一朗氏と相談したところ急遽当時の出版に苦労された諸氏と連絡してその苦労談を集めて頂き小生の失敗を糊塗して頂いた．その間先輩執筆者の諸兄に対して失礼な注文を出すにあたり，若手編集委員は躊躇したこともあったが，にもかかわらず大らかに受け取って下さった執筆者諸兄に感謝の他は無い．当初は再度執筆者に集まってもらい内容を検討し方針を見直すなど討論会を催す計画であったがその必要の無いものになっていると考え全国からの集合も大変なので中止した．予算以上の厚い書物になったが「航跡」の題字を小野会長が，パステル画を塙功労会員が熱意を持って引き受けて頂き，在外の江田会員、金会員も加わって 90 周年記念に相応しい会員の総力を集めたものを完成出来た．終始企画，編集，事務に努力された委員諸氏と暖かく後援して下さった理事会に感謝する．

本書の内容を改めて顧みると日本の敗戦の焦土から立ち上げた奮闘は単に日本の経済復興を支えたと言うよりも世界的に造船技術を新しい段階に引き上げたことにも見えてかの文芸復興ルネッサンスにも匹敵する技術のルネッサンスとも言えるものかと考える．本書の内容について会員諸氏に様々な意見，感想，追加論調などが出て協会誌「らん」を賑わすことになれば出版委員会の望外の喜びです．

創立 90 周年記念出版委員会

委 員 長　　三 宮　一 泰